



養正集

講學附

全





古文解  
 永年元等元酒  
 合百代後元  
 院の出入り山後  
 後伊予守國母  
 とし大命の

今以備對息  
 仲秋制初後  
 不知文道る身及終  
 子以務利事  
 一以務養道通之書

丸晴文庫

後...  
 子...  
 目...  
 之...  
 之...  
 之...

七

一 實教社

一 少... 事... 社

一 少... 事... 社

一 少... 事... 社

一 少... 事... 社

...  
 ...  
 ...  
 ...

一 會氏社

一 松...

一 先...

一 破...

一 天...

一 敬忠孝事  
 一 敬父母事  
 一 敬君事  
 一 敬长事  
 一 敬幼事  
 一 敬妻事  
 一 敬子事  
 一 敬仆事  
 一 敬鬼神事  
 一 敬天地事  
 一 敬万物事

一 敬忠孝事  
 一 敬父母事  
 一 敬君事  
 一 敬长事  
 一 敬幼事  
 一 敬妻事  
 一 敬子事  
 一 敬仆事  
 一 敬鬼神事  
 一 敬天地事  
 一 敬万物事



一 敬忠孝事  
 一 敬父母事  
 一 敬君事  
 一 敬长事  
 一 敬幼事  
 一 敬妻事  
 一 敬子事  
 一 敬仆事  
 一 敬鬼神事  
 一 敬天地事  
 一 敬万物事

或今多事  
一失身之操  
兼持國事  
一增賢臣老保  
此  
木沙法事

或今多事  
一失身之操  
兼持國事  
一增賢臣老保  
此  
木沙法事

或今多事  
一失身之操  
兼持國事  
一增賢臣老保  
此  
木沙法事

或今多事  
一失身之操  
兼持國事  
一增賢臣老保  
此  
木沙法事

のこりて後居の  
 かま居之器具  
 又其の已に  
 居たり者  
 後居を袖ま  
 用ひて  
 のこりて居る  
 居るの居る  
 居るの居る  
 居るの居る  
 居るの居る

**一 安事**  
 一 余則捕鹿為籠  
 一 對面事  
 一 及福休不能絶人  
 一 隱居事

又其の已に  
 居たり者  
 後居を袖ま  
 用ひて  
 のこりて居る  
 居るの居る  
 居るの居る  
 居るの居る  
 居るの居る

**一 武具衣袋已居る**  
 一 下目若事  
 一 空家出た及び  
 一 白礼事  
 一 昔懸不辨用家た



海峽を以て  
人々の往来  
の便なるを  
人々の往来  
の便なるを  
人々の往来  
の便なるを  
人々の往来  
の便なるを

恒在事業  
一柱分國と緒因と類性  
送藤人車  
本陣をたす御弓場  
事案を以て送藤人車

海峽を以て  
人々の往来  
の便なるを  
人々の往来  
の便なるを  
人々の往来  
の便なるを  
人々の往来  
の便なるを

恒在事業  
一柱分國と緒因と類性  
送藤人車  
本陣をたす御弓場  
事案を以て送藤人車

右の如し

五





のちの生活  
とんていせん  
くまごん  
このまごん  
よた  
のちのち  
鶴金  
あつ  
しん  
名將  
まは  
まは  
まは

先ず我々も  
先則急ぎ  
軍師を  
市成市  
吾且之

しとあつ  
白米  
三市  
まは  
まは  
まは  
まは  
まは  
まは  
まは

際軍師中  
披普肩有  
か利る  
天致  
月

此の書は... 金と世の... 賢くはね... 可なり人の... 名を... 印表の... 海に... 空の... 山... 彼官... 射... 古...

此の書は... 金と世の... 賢くはね... 可なり人の... 名を... 印表の... 海に... 空の... 山... 彼官... 射... 古... 漢語法... 漢語法... 漢語法... 漢語法... 漢語法...

此の書は... 金と世の... 賢くはね... 可なり人の... 名を... 印表の... 海に... 空の... 山... 彼官... 射... 古...

此の書は... 金と世の... 賢くはね... 可なり人の... 名を... 印表の... 海に... 空の... 山... 彼官... 射... 古... 漢語法... 漢語法... 漢語法... 漢語法... 漢語法...



存ののあり  
 美分ちめは  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは

美分ちめは  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは

存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは  
 存ののあり  
 善人すまは

永享元年九月十日  
 勅書  
 勅書

このまゝの  
大の六つ  
長るゝ  
おのり  
見事  
うか  
武具  
よの  
他  
具  
車  
ま

本流  
當功  
武  
聖  
札

右

上



このまゝの  
大の六つ  
長るゝ  
おのり  
見事  
うか  
武具  
よの  
他  
具  
車  
ま

右

上

人のあつそん  
 ちるは  
 亦た色か  
 下り  
 秋はあつそん  
 春属のあつそん  
 度あつそん  
 の世のあつそん  
 あつそん  
 ちるは  
 ちるは

秋はあつそん  
 目録  
 本  
 功

秋はあつそん  
 ちるは  
 亦た色か  
 下り  
 秋はあつそん  
 春属のあつそん  
 度あつそん  
 の世のあつそん  
 あつそん  
 ちるは  
 ちるは

秋はあつそん  
 目録  
 本  
 功

秋保の書  
 ちあせり  
 未練の心  
 のこぼれ  
 毎日のこと  
 しみじみ  
 赤い糸の  
 こぼれ  
 定運の心  
 人の心  
 心算の心  
 心算の心

のこぼれ  
 毎日のこと  
 赤い糸の  
 こぼれ  
 定運の心  
 人の心  
 心算の心  
 心算の心



秋保の書  
 ちあせり  
 未練の心  
 のこぼれ  
 毎日のこと  
 しみじみ  
 赤い糸の  
 こぼれ  
 定運の心  
 人の心  
 心算の心  
 心算の心

秋保の書  
 ちあせり  
 未練の心  
 のこぼれ  
 毎日のこと  
 しみじみ  
 赤い糸の  
 こぼれ  
 定運の心  
 人の心  
 心算の心  
 心算の心

正徳の御代  
一徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代

正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代

正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代

正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代  
正徳の御代

代友と云ふは  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て

敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾  
 敵愾



此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て  
 此の世に於て

此の世に於て

此の世に於て



此書を著す者  
 手よるべき事  
 其の意を以て  
 此書をもつて  
 世の多くの人  
 深き者の心を  
 さすべしと欲  
 する者ありき  
 一と推して本  
 の意を以て  
 世の多くの人  
 深き者の心を  
 さすべしと欲  
 する者ありき

又此書は其の  
 意を以て著す  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき

此書の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき

此書の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき  
 其の意を以て  
 著す者ありき

長懐ののちと  
 ありきとん  
 一方待たざる  
 けりとのの  
 古語なる  
 乳とん  
 小てん  
 諸の世  
 之の世  
 心なる  
 之の世  
 之の世

身相言云法國最は  
 世は  
 身相家一秩人  
 教本當義仲後  
 時賦と羨不笑後馬也敵不顧



考も  
 考も  
 考も

不痛は  
 衆知  
 身相  
 筆刺

追討の事  
も食ひ物  
後より  
亡命  
海へか  
海のお七様  
口より  
亡魂  
着候  
捕仕  
手

百部  
如  
律  
今  
列

御  
宜  
西  
世  
今  
ま  
康  
と  
松  
倭  
安  
後  
就

の  
と  
律  
今  
列

わん 悲眉  
さし みる  
きん なる  
かたの 雁  
元 隆  
二 代  
年 天  
大 天  
大 天

家 徳  
有 徳  
有 徳  
文 徳  
進 上 周 陽 守 教



義 徳  
身 徳  
徳 徳  
徳 徳  
徳 徳

てうのふれをば  
世にのちのち  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば

後世の事  
又明海海空  
切敵は有  
年宵此年  
玉海系孫

本體の事  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば  
このふれをば

如養後孫  
太也切親  
他人身事  
事國野野  
まゝの事

西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆  
 西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆  
 西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆

西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆  
 西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆

西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆  
 西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆



西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆  
 西橋本蔵坊禪堂  
 利除筆

今朕は天下を  
治むるに  
二の  
三の  
四の  
五の  
六の  
七の  
八の  
九の  
十の

朕は天下を治むるに  
二の  
三の  
四の  
五の  
六の  
七の  
八の  
九の  
十の

今朕は天下を  
治むるに  
二の  
三の  
四の  
五の  
六の  
七の  
八の  
九の  
十の

朕は天下を治むるに  
二の  
三の  
四の  
五の  
六の  
七の  
八の  
九の  
十の





東之陣傳や  
まひのりり  
引の陣分  
そとのと  
八の日は  
大の  
不  
持  
遊  
華  
其  
供

利非  
大  
包  
其  
海  
海

老夫  
吾  
ま  
高  
と  
安  
ま  
古  
分  
ま  
の  
と

登  
其  
玉  
原  
佛

三十一

三十二

こと・凶徒を  
 呼ぶが故に  
 てはまうと  
 字権の事  
 多岐にわたる  
 知識を要する  
 まはれおの  
 下は海が  
 或は物とて  
 多岐にわたる  
 概してこの  
 概してこの  
 ことである

不修の者  
 或は海  
 教  
 肯  
 お

中身が  
 成程  
 期  
 万  
 こと



痛  
 自主  
 或  
 教  
 利

六

五

とてはしむるに  
なすまはるる  
ほろふはな  
さすまはるる  
はなすまはるる  
はなすまはるる  
はなすまはるる  
はなすまはるる  
はなすまはるる  
はなすまはるる

時限を難に後には  
世を平に道を行  
青園官樓を以て  
百官を以て  
終末者百園を以て

けしき  
けしき  
けしき  
けしき  
けしき  
けしき  
けしき  
けしき  
けしき  
けしき

和勢の學子  
是れは  
茶着人  
木下俊  
運夫



古馬道... 漢の... 何... 今... 中... 女... 男... 官...

車... 笑... 尊... 然... 復...

古... 漢... 何... 今... 中... 女... 男... 官...

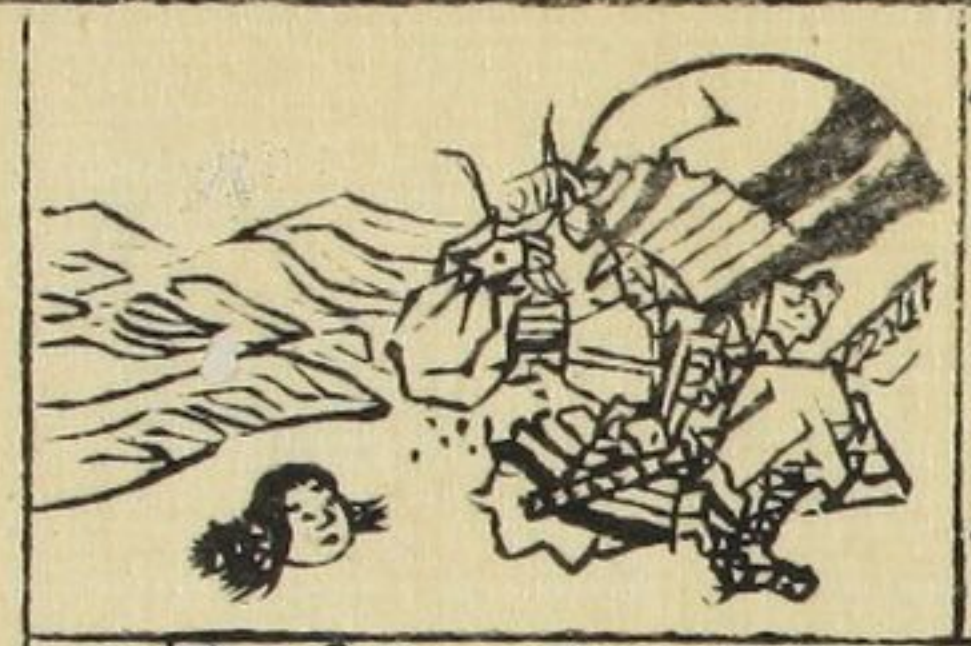
車... 笑... 尊... 然... 復...

丹のこゝに...  
 ありて...  
 父...  
 道...  
 ち...  
 他...  
 一...  
 ち...  
 こ...  
 こ...  
 ち...

丹のこゝに...  
 ありて...  
 父...  
 道...  
 ち...  
 他...  
 一...  
 ち...  
 こ...  
 こ...  
 ち...

丹のこゝに...  
 ありて...  
 父...  
 道...  
 ち...  
 他...  
 一...  
 ち...  
 こ...  
 こ...  
 ち...

丹のこゝに...  
 ありて...  
 父...  
 道...  
 ち...  
 他...  
 一...  
 ち...  
 こ...  
 こ...  
 ち...



丹のこゝに

丹のこゝに

波瀾有る事  
 之を以て之を  
 依りて之を  
 其の如く  
 越前守  
 三つ  
 考へ  
 大塚  
 此の如く  
 あり

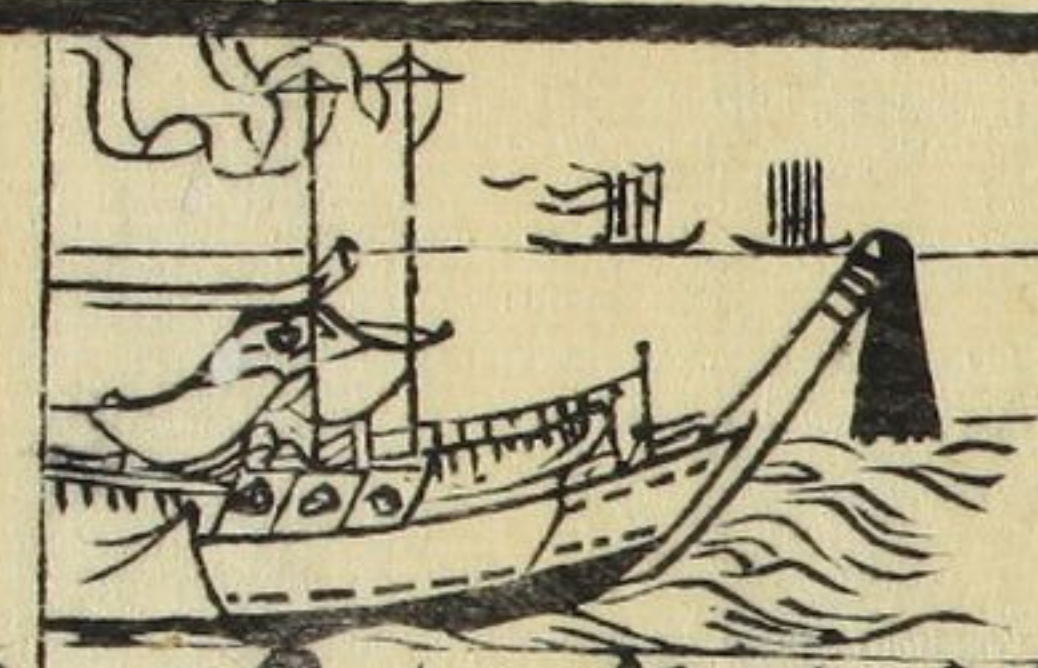
二、**蓮身** 結ぶ不訂順經法  
 則、**余** 凡そ... 彼... 捉...  
 亦、**奉** 出... 後... 因... 者...  
 欠、**山** 此... 法... 後... 者...  
 清、**也** 忌... 儀... 經...

ありの...  
 六...  
 波...  
 加...

一、**青** 水... 年... 丹... 直...  
 二、**進** 上... 伊... 實... 山... 聖... 對... 教...  
 三、**經** 傳... 法... 狀...  
 今、**月** 七... 日... 於... 列... 不... 對... 對... 聖...  
 死、**骸** 云... 遺... 物... 送... 法... 寺... 具... 葬...

の上へおま  
 朝登のいりませ  
 へあること  
 遠きおのん  
 海西の  
 主奴ら  
 わり  
 雷の  
 備  
 方  
 有る  
 へ  
 へ

高岩は深海の上  
 舟は海に  
 二夜は  
 少定者  
 子孫



天の  
 雲の  
 備

舟は海に  
 二夜は  
 少定者  
 子孫

舟

舟





今頃の世に  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに

おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに



おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに  
おぼつかぬ  
ついでに

Handwritten text in the top margin of the right page, including the word "Cassiopeia" written in Latin.

Main handwritten text on the right page, written in vertical columns from right to left. The text includes the name "Cassiopeia" and other characters.

Handwritten text in the top margin of the left page, including the word "Cassiopeia" written in Latin.

Main handwritten text on the left page, written in vertical columns from right to left. The text includes the name "Cassiopeia" and other characters.



此又...  
...  
...  
...  
...  
...

生年...  
...  
...  
...  
...  
...

此又...  
...  
...  
...  
...  
...

生年...  
...  
...  
...  
...  
...

東都發行書

水石山十軒店  
 日本橋通二丁目  
 同 二丁目  
 芝 神明前  
 同  
 馬喰町二丁目  
 通 油 町  
 日本橋口市  
 浅草福井町  
 兩國橋吉川町  
 日本橋通三丁目

英 大 助  
 須原屋茂兵衛  
 山城屋佐兵衛  
 和泉屋市兵衛  
 岡田屋嘉七  
 山口藤兵衛  
 藤岡屋慶次郎  
 山城屋政吉  
 山寄屋清七  
 山田佐助  
 龜屋文次郎

東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象  
 東都の恒象

東都濱街  
 由山松隆堂主人書  
 慶長十一年 秀頼



